

(二) 文学的な文章

ア 文学的な文章を学ぶ意義

我々は、それぞれ「私」という一人称の人間を生きている。しかも「私」は後にも先にも唯一無二で固有の存在である。

ただ、「私」という人生は元来一人分の人生でしかない。血のつながる親子でも愛し合う夫婦でも人生を代わることとはできないし、権力者や大金持ちがどんなに願っても他者の人生を得ることはできない。したがって、我々は己を主人公とする人生を主観的に生きるしかないのである。

そのような「私」だけの人生の中で、「文学的な文章」が担う役割は大きい。現実の世界、日常生活で体験できない己以外の人生を読むことで、疑似体験できるからである。作者が紡ぎ出した言葉の意味を考え、登場人物に込めた思いを感じ取り、異世界・異文化の深淵をのぞく。たくさんの他者の人生に「私」の人生を照らすことで、ものの見方・感じ方・考え方が深くなり、ひいては生き方をも豊かにすることができる。

「文学的な文章」を学ぶことは、生徒が人間として成長していくために必要だと言える。

イ 文学的な文章の指導法

(ア) 人物像・場面の把握

授業は限られた時間の中で行われるため、必ずしも作品の全てを教材として扱えるわけではない。書き出しが載っていない場合や結末が載っていない場合、途中から途中までの場合さえ珍しくない。

そのような中でいかに作品の世界を捉えるか。まずは設定(背景)を丁寧に確認することがカギとなる。設定(背景)とは、登場人物

の性別・年齢・職業・家族構成・交友関係や、作品の時代・場所・季節・時間帯・天候などのことである。作品の世界観をつくる材料であり、書き手の意図が表れるものだ。散りばめられている材料の確に拾えるほど、以後の読解がスムーズとなるのは間違いない。

こうして、「登場人物はどのような状況下で生きているか」に着目させることで、思考過程・行動目的・発言意図を捉えやすくなり、登場人物に対する理解がより深まるのである。

また、本文に添えられている状況説明(あらすじ)も軽んぜず精読すべきである。全体の展開における当該部分の位置付けが明確になってくるからである。

(イ) 心情の分析

作品を読みながら自らと登場人物を重ね合わせ、考え方・生き方に共感したり反発したりすることは、生徒の心情を豊かにする上で大変意義がある。

しかし、「なんとなく」「たぶん」というような曖昧な理由で自分勝手に解釈することは避けさせたい。それでは登場人物の心情を想像で決めつけることになってしまう。一人一人異なる人生経験に作品が引つ張られてしまうからだ。よって指導者は、恣意的にならない読解方法を生徒に身に付けさせなくてはならない。

それには客観的な根拠を文中から探し出すことが肝要である。

登場人物の心情を判断する根拠としては、第一に台詞・心内語が挙げられる。登場人物の感情の吐露であり思考が表出しているものだからである。次に、行動(動作)が挙げられる。身体は心(脳)が動かしており、行動(動作)は具体的な心情の表れと言えるだろう。そして、情景描写も押さえるべき根拠となる。作品に描写され

る情景は、登場人物の心情を投影している場合が多い。

本文を読みながら心情が表れた箇所に傍線や印を付けさせ、心情を丹念に分析する習慣を身に付けさせたい。

(ウ) 表現の理解

表現は書き手ごとにまちまちである。それは単に個性の違いだけにとどまらず、書き手の生きる国・時代などにも影響を受けているものである。書き手だけではない。読み手にも同じことが言える。つまり、単語一つとっても頭に浮かぶイメージや含有するニュアンスは人それぞれ異なってくるのである。それほど言葉というものは繊細であり深淵なものである。

それゆえ、指導者は、生徒が言葉に対する興味・関心を抱くような指導を心がけていきたい。日頃からさまざまな表現に向き合わせ、言葉の意味をじっくり考える経験を積ませることが大切である。さらに、思考・心理の伝達媒体としても言葉を認識するようになると、前後関係から未知の言葉の意味を推察したり、行間を読んだりということも可能になってくるはずである。

とりわけ比喩表現に着目させたい。直接的な表現が多い「論理的な文章」に比べ、「文学的な文章」は意匠を凝らした表現に富むからである。

比喩表現とは、物事を説明する際に、類似した他の物事を借りて表現することであり、比喩であることを明示する直喩（明喩）や、明示しない隠喩（暗喩）などがある。喩えるものと喩えられるものが何かを押さえて読み進めることが大切である。

コラム⑩【反転授業】

昨今世界の大学教育ではオープンエデュケーションが進められ、海を越えた大学の講座が無料で受講できる体制も整いつつある。(MOOC—massive open online course)

その流れを受け、日本の大学でも学習者の主体性を引き出すため、今まで授業で行っていた知識の習得を事前のオンライン学習で行い、授業の場では発表・討論形式によって考えを確認したり、深めたりする活動が導入されている。これを「反転授業」と呼ぶ。

さらに、大学だけではなく、自治体単独の取組として、佐賀県武雄市では、二〇一三年十一月から小学校一校で「反転授業」の試行が始まっている。

このように授業の形態が変化すると、指導者の力量が知識の豊富さ、教授テクニクだけでなく、ICT技術の活用、学習者たちの活発な交流への指導に関して問われることになるだろう。

◆参考資料◆

「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」
文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会

平成25年8月21日

コラム⑫【教員の仕事とは】

私たちはいま教職に就いている。時に「公僕」と呼ばれたり、「聖職者」に喩えられることもある仕事である。なるほど、人間の成長に携わり、人格形成にも少なからず影響を与え、生き方や価値観まで諭す、責任ある仕事だ。だからこそやりがいも大いにある。しかし、日々大上段に構えるばかりでいいのだろうか。「教授者」や「指導者」という上からの意識のみでいいのだろうか。そもそも教職とは何だろうか。教員の仕事とは、いったい。

哲学者西田幾多郎は、京都帝国大学を退官する時の心境を綴った『或教授の退職の辞』において、次のように語っている。「(前略)私は今日を以て私の何十年の公生涯を終わったのである。(中略)回顧すれば、私の生涯は極めて簡単なものであった。その前半は黒板を前にして坐した、その後半は黒板を後にして立った。黒板に向って一回転をなしたといえ、それで私の伝記は尽きるのである。しかし明日ストーヴに焼べられる一本の草にも、それ相応の来歴があり、思出がなければならぬ。平凡なる私の如きものも六十年の生涯を回顧して、転た水の流と人の行末という如き感慨に堪えない。(後略)」

人間はこの世に生まれ、死んでいく。生命誕生以来、ずっと繰り返されてきた「一人分の人生」の積み重ねの歴史、それが人間の歴史である。先人から膨大な知識と経験を教えてもらい、自らも知識と経験をその土台に積み上げ、また後世へバトンを受け渡していく。人間は完璧ではない。ゆえに成功も失敗もする。大人も子どもも、そして教員も。私たちは、必要以上に大上段に構えなくてもいいのではないか。「心」ある、自分の個性を活かした教員になれば。きっと子どもたちはついてくる。

時折立ち止まって、自分の仕事について思いをはせること、それは教員として大切な研鑽ではなかるうか。

◆参考資料◆ 西田幾多郎『思索と体験 続』「或教授の退職の辞」 岩波書店 一九三七年

一日時 平成*年*月*日（*曜日） 第*時間目（50分）

二 学級 第一学年*組（男子*名 女子*名）

三 単元名 様々な文章と読み比べることで読解を深めよう

四 単元の目標

- (1) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。（読む能力）（「C読むこと」(1)のウ）
- (3) 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）
 （「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)のイの(イ)）

五 取り上げる言語活動と教材

(1) 言語活動

様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

（読む能力）（「C読むこと」(2)のエ）

(2) 教材 芥川龍之介「羅生門」（『国語総合』*出版）、「今昔物語集」、「方丈記」

六 単元の具体的な評価規準

- (1) 人物、情景、心情などを恣意的にならぬよう表現に即して読み味わい、どのように描かれているか的確に読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 人物、情景、心情などを恣意的にならぬよう表現に即して読み味わい、どのように描かれているか的確に読み取っている。（読む能力）
- (3) 段落の組み立て、語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かにしている。（知識・理解）

七 指導観

(1) 単元観

基になった古典作品との読み比べで見つかる設定や表現の相違から、作者の意図を考えることができる。また、他の生徒と話し合うことで多様な読みと解釈が存在することを知り、ものの見方、考え方を豊かにすることができる。

(2) 学習者観

学習態度はおおむね真面目であり、落ち着いて授業にのぞむことができる。ただ、受け身の姿勢が強いため、定期考査や小テストが迫らないと努力せず、主体的に学習することは苦手な生徒である。小説は評論よりも読みやすいので、今回の授業を通して、作品を分析するおもしろさを感じさせたい。

(3) 教材観

読みやすく、内容も深い小説の定番教材である。読み比べや話し合いを通して、自分とは異なる着眼点や同じ着眼点による解釈の違いを知り、読解の幅広さ、奥行きを感じさせたい。また、表現方法や読解方法を学ばせることによって、作品への興味・関心をいっそう高めることができる。

八 単元の指導計画（配当時間7時間）

次 時間	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、 *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次 5時間	・作者芥川龍之介の人物像や物語の舞台となる平安時代	・教科書に載る本文と「羅生門」の初出本文とを読み比べさせ、物語の	◆記述の点検（ノート）

資料 4

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
	<p>九 本時の目標</p> <p>クラスメートの解釈を聞くことにより、さまざまなものの見方を知るとともに、「羅生門」に対する理解を深める。(読む能力)</p> <p>十 本時の評価規準</p> <p>「羅生門」に関する多様な着眼点を知り、自分の考えと比較しながら作品理解を深めている。(読む能力)</p> <p>十一 本時(全7時間中の7時間目)の指導</p>		
<p>第2次 2時間</p>	<p>・「今昔物語集」と「羅生門」の読み比べから、作者の表現意図を考える。</p> <p>・他者の意見と比較して、自分の考えを深める。</p> <p>・班で意見を発表し合い、班としての意見を二点までに絞る。</p> <p>・成員で発表原稿を作成する。</p> <p>・班ごとに発表を行い、聞き手は評価する。</p> <p>・発表を聞いた後、再度自分の意見をまとめる。</p>	<p>設定を「今昔物語集」や「方丈記」と比較させ、表現への興味・関心を促す。</p> <p>・下人と老婆それぞれの「生きるための論理」を理解した上で、主題を自分の問題としても捉え、考えが深まるように指導する。</p> <p>・物語の設定や筋書が、「今昔物語集」と「羅生門」とではどのように違うかに着目させ、筆者の意図を考えさせる。</p> <p>・ワークシートⅠに自分の意見をまとめさせる。</p> <p>・四人程度の班を作り、意見発表をさせる。発表後ワークシートⅠを半分に切り、同じ意見を重ねて種類分けをさせるとよい。</p> <p>・客観的な根拠に基づいた意見か否かを検討させ、班として発表する意見を選ばせる。</p> <p>・発表原稿は、ワークシートⅠを切ったものを貼り付けてもよい。発表者を決めておく。</p> <p>・自分と異なる考えを知ること、作品に対する理解を深化させ、また自分の視野を広げさせる。</p> <p>・ワークシートⅡに最終的な自分の意見をまとめる。</p>	<p>◇(1)</p> <p>◆発言・行動の観察</p> <p>*心情が表れた箇所には傍線や記号をつけさせ、心理を確認させる。</p> <p>◇(2)</p> <p>◆記述の分析(ワークシートⅡ・相互評価表)</p> <p>*班の発表原稿・相互評価表などを使って、どの意見に納得したかを振り返らせ、まとめさせる。</p>

(3分) 導入	展開 (44分)	終結 (3分)
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を 知り、班活動の準 備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班の発表（1班あ たり持ち時間2分。 10班行う）・相互評 価表の記入 ・自分の意見をまと める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を振 り返る。 ・次時の内容を知る。
<ul style="list-style-type: none"> ①本時の発表方法と、配布された 相互評価表の扱い方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②班の代表者は教壇に立ち、発表原 稿を読み上げる。 ③相互評価表を記入し、相互評価 する。 ④ワークシートⅡをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤読み比べの目的を確認する。 ⑥新しい教材の紹介をする。
<ul style="list-style-type: none"> ①論理の飛躍がないか、明白な根拠が あるかという点に着目させ、恣意的 な読解をしていないか確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ②「羅生門」「今昔物語集」の比較に より導き出された意見であるか検 討させる。 ③相互評価により、自身を客観視させ る。 ④本時の総括として、ワークシート Ⅱに自分の意見をまとめさせる。 ⑤相互評価表とワークシートⅡを回 収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (1) ◆ 記述の確認 (相互評価表) ◇ (2) ◆ 記述の分析 (ワークシートⅡ) ⑥ 予習の指示をする。